

原油調整金9割上げ サウジ産5月積み

サウジアラビア国営石油会社のサウジアラムコは、アジア向けに長期契約で原油を販売する際に指標価格に上乘せする調整金を大幅に引き上げる。代表油種の5月積みは4月積み比べおよそ9割上昇し、2000年以降の最高値を2カ月連続で更新した。ロシア産原油からの代替需要が高まった。

代表油種「アラビアンライト」の調整金は1バレル9.35ドルの割り増しと、4月積み比べて4.4ドル高い。

「原油先物価格の期間構造から算出する理論値よりも0.5ドル程度高く、中東産の需要増加が反映されている」（マーケット・リスク・アドバイザーの新村直弘共同代表）との指摘がある。

ロシアによるウクライナ侵攻で、米国は3月にロシア産原油の禁輸を決定。欧州でも、禁輸に向けた議論が進む。信用リスクの高まりや社会的な批判から、民間の石油会社の間でロシア産原油の調達を自主的に回避する動きが広がる。

スーパーライト	+10.85(+2.7)
エキストラライト	+9.60(+3.7)
ライト	+9.35(+4.4)
ミディアム	+9.30(+4.4)
ヘビー	+7.95(+4.4)

短期の利益か持続可能性か ユニリーバ、株主同士が対立

英紙フィナンシャル・タイムズ（FT）のニューズレター「モラル・マネー」6日号は、英国の食品・日用品大手ユニリーバの株主総会が短期的な業績向上を要求するアクティビスト（物言う株主）と、サステナビリティ（持続可能性）を支持する株主が対立する場になる可能性を論じた。

1月、FTは物言う株主として有名なネルソン・ペルツ氏がユニリーバの保有株を積み増したと報じた。同社はポール・ポールマン前最高経営責任者（CEO）の下で、いち早くサステナビリティへの対応を進めた企業として知られる。だが最近株価が低迷しアクティビストに攻撃されやすい状況に陥っていた。

ESG（環境・社会・企業統治）投資家は、いつかアクティビストが企業のESG対策を批判し、関連コストの削減を通じた株価の上昇を要求してくる時が来るのではないかと心配してきた。

ユニリーバの株主は、ペルツ氏が同社のサステナビリティの取り組みを攻撃しかねないと危惧している。例えば、ニューヨーク市のブラッド・ランダー会計監査官が同社の取締役会に懸念を表明する手紙を送付したことが分かった。同市の年金基金は約2億ドル相当の同社株を所有する。

ペルツ氏はユニリーバに取締役の変更を求めているが、ランダー氏は手紙のなかでこの変更案の可否を株主全員に問うように求めた。ペルツ氏が率いるファンド、トライアン・ファンド・マネジメントの過去の活動を振り返り、ランダー氏は「サステナビリティへの取り組みが弱く、短期的な結果を求めるものだった」と深い懸念を持っていると指摘した。

ランダー氏はペルツ氏が米プロクター・アンド・ギャンブル（P&G）を相手に展開した活動に注目する。2018年にペルツ氏はP&Gの取締役に加わったが、20年11月には指数算出会社MSCIがP&GのESG評価を「AA」から「A」に引き下げた。「マレーシアのパーム油農場での強制労働疑惑などが格下げ要因の一つになった」（ランダー氏）という。

ユニリーバの年次株主総会は5月4日だ。短期利益を掲げてペルツ氏がユニリーバと対立する構図になるかどうか。

ステンレス鋼板値上げ、日鉄系 4月分から最大15%程度

日鉄ステンレスは7日、産業機械や厨房機器などに使うステンレス冷延薄鋼板の一般流通（店売り）向け価格について、4月契約分からニッケル系を1トン6万5千円（13～15%程度）、クロム系を同1万5千円（5%程度）引き上げると発表した。ニッケル系の単月の上げ幅は2010年以降で最高水準。原料やエネルギー価格の上昇、為替の円安などを反映する。

契約価格は前月と前々月の原料価格の平均値と、直近の需給環境やその他のコストを参考にして決める。2～3月の原料価格の平均値はニッケルが1～2月比20.5%高く、フェロクロムは横ばいだった。

ニッケルはロシアの供給懸念で、指標となるロンドン金属取引所（LME）の現物価格（キャッシュ）が3月に入って急騰した。市場の混乱からLMEは3月8～15日まで取引を停止するなど、異例の対応に追われた。取引が停止・混乱した間の現物価格は、LMEが後日遡るかたちで決めた。日鉄ステンレスもその現物価格に基づいて平均値を算出した。

半導体製造装置などに使う厚鋼板も同様に1トン6万5千円（10～11%程度）引き上げる。値上げは11か月連続。

ニッケルの使用量が多い一部の品目については、ニッケル価格を反映するエキストラ部分を4月契約分から値上げする。上げ幅は「SUS316」で1トン3万円、「SUS316L」で同6万円。

ニッケルは高騰が続いているほか、フェロクロムも4～6月積みの調達価格が過去最高値となる。今後の追加値上げが確実な情勢だ。

ウメモト インフォメーション

2022年4月8日

担当 坂田

米ぬかのアミノ酸抽出 秋田県湯沢市の秋田銘醸 栄養成分着目し付加価値

酒造りの過程で生じる副産物の一つが原料の玄米を精米するときに出る米ぬか。大吟醸酒なら5割以上磨く。コメ油、堆肥向けに販売する酒蔵が多いが、付加価値を高めようと研究開発してきたのが秋田県湯沢市の秋田銘醸だ。着目したのは栄養成分のアミノ酸だった。

酒どころの秋田県。県酒造協同組合に加入する酒造会社は31社ある。その中でも「爛漫（らんまん）」の銘柄で知られる秋田銘醸の生い立ちはユニークだ。東京など大都市圏の販路拡大を目指し県産日本酒の量産体制を整えるため、地元経済界などが1922年6月に設立した。

明確な事業目的を定め設立した企業だからだろう。進取の気風に富む。「米ぬかの付加価値を上げて有効に活用しよう」（京野学社長）と、県総合食品研究センターと共同研究を始めたのが2003年だった。

血圧を下げる効果やストレス軽減につながるとされるアミノ酸の一種「GABA（ギャバ）」に着目した。米ぬかに含まれるこのアミノ酸を酒造りで培った発酵技術による乳酸発酵で抽出する。04年には高濃度のギャバを含む米ぬか発酵液の開発に成功した。

国の補助金を生かし、地域の企業と連携するコンソーシアム（企業連合）で、お酒とブレンドしたり菓子に使ったりした。さらに活用範囲を広げる契機になったのが「爛漫ギャバ粉末」だった。乾燥させて粉末にし長期保存できるようになった。

ギャバ粉末の活用を中心に、この1年半ほどの間に新たな動きが続いた。秋田銘醸は国や県の補助金を得て酒蔵の一角に新工場を建設し、20年末に稼働を始めた。

生産しているのはギャバ粉末のほか、もう一つの副産物である酒かすの粉末、規格外の枝豆を原料にした枝豆粉末の3種類だ。ギャバ粉末と酒かす粉末はそれぞれ県総合食品研究センター、秋田大学と共同研究した。

21年末には、ギャバ粉末を配合するゼリー状のサプリメント「爛漫GABA」が健康効果を表記できる機能性表示食品として消費者庁に届け出て受理された。いわば健康効果にお墨付きを得たことになる。

自社の会員組織「美酒倶楽部（くらぶ）」でモニターを募り新商品の感想を尋ねる。首都圏の企業などとは販売契約に向け具体的に交渉する。

食品会社などが爛漫ギャバ粉末を使った商品開発も後押しする。睡眠の質の改善や血圧を下げる効果などの機能性表示食品として届け出る場合、自社のノウハウを提供する支援も始めた。

酒造業界は若者の日本酒離れ、新型コロナウイルス禍による飲食店の苦境など厳しい経営環境にある。6月に設立100年の節目を迎える。年商1億円を目指し、副産物の加工事業を新たな収益源に育てるため奮闘の日々が続く。

リサイクル工場全電力を太陽光で

エフピコは4日、中部リサイクル工場（岐阜県輪之内町）で使う電力を10月末から全て太陽光発電で賄うと発表した。三井物産子会社の三井物産プラントシステム（MPS、東京・港）がエフピコの工場に設けた太陽光発電による電力を買い取って使う。同社は国内に3カ所あるリサイクル工場で使う電力を全て太陽光発電で賄う考えで、2022年度中にも発電設備の設置を完了させる。

中部リサイクル工場は回収した食品トレーなどを再び原料に戻す拠点。太陽光発電設備はリサイクル工場と同じ敷地内にある別の工場の屋根に設ける。

エフピコは3月、関東リサイクル工場（茨城県八千代町）で使う電力についても太陽光発電で賄えるように隣接する工場の屋根に発電設備を設けた。残る福山リサイクル工場（広島県福山市）用の太陽光発電設備も22年度内に設置する。